

採血業務支援システム RInCS の導入とその効果

◎名嘉真 奈々静¹⁾、下地 省吾¹⁾、金城 舞機¹⁾、大嵩 千怜¹⁾、手登根 稔¹⁾、大城 春奈¹⁾、山野 健太郎¹⁾、石川 実¹⁾
社会医療法人 仁愛会 浦添総合病院¹⁾

【はじめに】当院は2023年12月に新築移転し、これを機に採血業務支援システムを導入した。これにより、旧病院時代より課題であった、待ち時間の詳細なTAT (turn around time) 分析が可能となった。今回、移転から4ヶ月が経ち、採血受付から実施までの患者待ち時間等のデータ解析を含め、本システム導入後の効果について報告する。

【採血管準備装置及び採血業務支援システム】採血管準備装置(採血台5台)は、ipres core (小林クリエイト株式会社)を使用し、新たに採血業務支援システム RInCS (同社)を導入した。

【方法】本システムを利用し、採血までの待ち時間、採血者毎の患者1名にかかる所要時間、曜日別、時間帯別集計、車いすやアルコール不可の割合等の解析を行った。本システムでは、患者難易度と採血者スキルとをマッチングさせる採血業務指標化システムを兼ね備えているため、患者待ち時間短縮や満足度向上につながることを期待して、今後稼働予定である。

【結果及び考察】新しい採血室は、本システム及び採血台

(上下稼働式、跳ね上げ板)等の導入により、患者や採血者の動線が考慮されたレイアウトとなっており、スムーズな運用に繋がっている。導入後の4ヶ月間の患者待ち時間の平均時間を見ると、午前が11分29秒、午後が6分23秒と、午後は約半分の待ち時間であった。また、採血者毎の患者1名にかかる所要時間は3分7秒(1分47秒~6分32秒)と採血者の熟練度が高いほど短い傾向がみられた。本システムは、車いすやアルコール不可等の患者情報や、採血実施部位等の情報が記録可能で、次回来院時にはスムーズな運用が可能であり、待ち時間短縮に繋がっているものと考えられる。特に、旧病院では1ブースでしか車いす患者の採血が出来なかったが、今回各ブースで車いす患者に対応が可能となった。ちなみに、この4ヶ月間における車いすの割合は5.7%、アルコール不可の患者は2.0%であった。

【結語】本システムの導入により、各種のデータ解析が可能となり、患者待ち時間短縮及び満足度向上に繋がっていると思われる。

<連絡先>098-851-5124 (臨床検査部直通)